

## 大項目 10 学生生活への配慮

### 【目標】

本学の教育理念を実現し、学生の資質・能力を十分に発揮させる為に、有効な経済的支援制度や学生の心身の健康保持・増進等を配慮した体制の整備、課外活動への継続的・組織的な指導・支援の充実を図る等、適切な環境を整えると共に、美術・デザインを学ぶ多様な学生の個性を踏まえたきめ細やかな学生生活上の指導・助言を行う。

- (1) 武蔵野美術大学奨学金のより有効かつ適正な受給者配分方法と評価基準の検討・実施
- (2) 大学院修士課程における奨学金の充実
- (3) 保健室体制の見直し
- (4) 生活相談担当部署の充実
- (5) 課外活動施設の拡充
- (6) 就職担当部署の充実
- (7) 就職指導を行う専門のキャリアアドバイザーの育成及び配置

### 1) 学部

#### 【学生への経済的支援】

---

A群 奨学金その他学生への経済的支援を図るための措置の有効性、適切性

#### 1. 武蔵野美術大学独自の奨学金について

##### ●現状把握

武蔵野美術大学奨学金（以下、大奨という）は、本学独自の奨学金制度で、人物・学力が優れ、経済上修学困難な造形学部及び大学院博士前期課程の留学生を除く学生を対象とする奨学金である。授業料の半額（592,500円）を115名に給付（贈与）している。

成績3.2以上であれば出願資格がある。基準としては、2005年度まで成績よりも家計を重視している傾向がデータにより確認された。また、学年別支給率を奨学金応募比率によって採用者数を定めていたため、1年生採用枠が常に大きくなり、2年生以上の支給率が低くなる結果となっていた。さらに、学部1年生は、高校における成績が大奨採用のための評価基準となっているため、出身高校間格差等成績を比較する上での疑問があった。これらの問題を解決するため、2006年度より採用者数を1年生26名、2・3年生各23名、4年生24名、大学院前期課程生19名とほぼ等分することで偏りをなくした。成績も前年度1年間の成績を評価対象とし、新入生については評価対象を入試成績に改めた。

## 学生生活への配慮

また、各学科の採用人数者数は入学定員数により配分を決定した。

その他の大学独自の奨学金として、三雲祥之助賞、清水多嘉示賞、飯田三美賞、三林亮太郎賞、杉村奨学金、橋本修英奨学金、岡井奨学金、根岸奨学金（以下、「四賞四奨」という。）がある。これらの奨学金は、それぞれの先生方の寄付金を基金として優秀な学生に給付する計画で設立された。

### ●点検・評価

家計重視の2005年度までは、ともすると学業に精励していない「学業が優れ」ているとは言い難い学生も毎年奨学金を受けられる結果となっていた。2006年度からの改正で学業も家計とともに基準足りうるものとなった。また、1年生については評価対象を高校評点から入試成績に改めたので、高校間格差の問題は解消した。

「四賞四奨」の原資は有限であり、当初は原資から発生する運用益、利息等を奨学金として支給する計画であったが、利息等でまかなえない分について現在は経常的経費で補てんしている。

### ●改善・改革方策

大奨については2006年度の基準見直しにより、目標とする「有効かつ適正な受給者配分方法と評価基準の検討・実施」は達成された。

「四賞四奨」の今後のあり方については、その存続も含め全学的に検討する場が必要である。（別紙資料1参照）

## 2. 短期貸付金制度について

### ●現状把握

短期貸付金制度は、学業のために不時の出費があったり、家庭からの送金が遅れたりして、一時的に就学に必要な経費の調達が困難な事態が起こったときのための制度である。1口2,000円で5口まで（1万円）、返済期間は1ヶ月以内で年3回まで借りることができる。

利用者数は、2002年度244人、2003年度323人、2004年度256人、2005年度285人、2006年度254名となっており、現在までのところ返還率は100%である。

短期貸付金の貸付限度額は、1977年度までは1口1,000円で3口まで計3,000円、1978年度から1999年度までは1口2,000円で3口まで計6,000円、2000年度より現行となっている。

### ●点検・評価

制作費や生活費にかかる費用を補うものとして、また就職活動における諸費用（地方の就職試験に赴く交通費・衣服代）などを考えた場合貸付額が低いと考えられる。就職活動の早期開始、長期化並びに長距離化、制作コストの上昇や仕送りの遅延などを考慮し改善が必要である。また、「就学に必要な経費」に限定する必要はないと考えられる。

## ●改善・改革方策

短期貸付金制度の充実に向けて、まずは教務学生生活委員会で検討するべきであろう。ただし、適用に際しては4年生など卒業年次の学生の貸付期限等については就職活動等の貸付事由を考慮する一方で、確実に返済させるために別途の条件を検討する必要がある。(別紙資料2参照)

### 3. 受入留学生への経済支援

#### ●現状把握

本学に在籍する留学生(私費留学生、国費留学生、交換留学生)の人数は、別紙資料7のとおりである。わずかではあるが、増加の傾向となっている。

#### (1)私費留学生への経済支援

留学生の大半を占める私費留学生への経済的支援は次のとおりである。

##### ○授業料減免制度

授業料の3割を減免する。

##### ○奨学金

(学内奨学金)

①武蔵野美術大学私費外国人留学生奨学金(年額30万円×6名)

②武蔵野美術大学高井幸子奨学金(年額25万円×2名)

(学外奨学金)

①私費外国人留学生学習奨励費(日本学生支援機構)

(年額60万円×10名)

②文部科学省国費外国人留学生(国内採用)

(月額13万4千円)

③その他民間団体奨学金

#### (2)交換留学生(受入)への経済支援

協定校からの交換留学生は協定に基づき学費は全額免除している。

また、交換留学生1名に、本学が日本学生支援機構へ申請した短期留学推進制度の奨学金を受給している。

奨学金以外では、交換留学生の宿舎について本学が一括して借り上げ、費用の一部も本学が負担し、交換留学生に安価に提供している。同宿舎には、日本人学生1名を常住させ、日本での充実した留学生活が送れるよう配慮している。

授業においても、授業理解が深まるよう日本人学生をチューター(有給)として配置し、サポートしている。

## ●点検評価

### ①私費留学生への経済支援

例年私費留学生の多くは、学費納入が滞りがちである。経済的支援以前の問題として、留学中の学費、生活費等についての準備が不十分なまま、留学してくるためと見

## 学生生活への配慮

ている。また、経済的な困窮さから、アルバイトに勤しむものも多く、授業への悪影響も見受けられる。

本学では私費留学生に対し授業料の30%を減免している。減免の対象は留年者及び休学者を除く私費留学生である。しかしながら、大学の授業料減免に対する国からの補助が逡減の一途をたどり、2006年度では減免額に対する国からの補助率は30%を切った。留学生への授業料減免が本学の財政にとって大きな負担となってきた。国には留学生の学習環境の改善のため補助金等の経済的な支援を強く望みたい。一大学が自助努力のみで減免制度を維持していくことは困難な状況となっている。

国からの補助の改善が見られない状況が続けば、現行の一律的な授業料減免制度の見直しも検討せざるを得ない。

### ②交換留学生（受入）への経済支援等

交換留学生については協定により派遣された大学では学費納入はしないこととなっており、制度の性格から経済的な支援の必要性は高くない。本学では日本学生支援機構の短期留学推進制度に奨学金を申請し、交換留学生1名が受給している。

支援の内容とすれば、経済的支援よりも、日本語をほとんど理解できない短期の交換留学生が本学においていかに言語上の障害を乗り越えて学習できるようにするかである。そのためには、国際部国際交流留学生課が渡日以前から希望する学習内容を聴取し、学内の研究室、担当教員との連絡調整をおこない、留学中も目的に沿った学習ができるよう継続して支援している。また、日本人学生をチューターとして各交換留学生に配置し、授業理解を深めるよう支援している。

宿舎については、本学がアパートを一括借り上げし、経費の一部は本学が負担し、交換留学生に安価に提供している。

## ●改善・改革方策

本学としてこの厳しい状況下におけるより健全な授業料減免制度のあり方について本学の財政状況等も踏まえた検討を2006年度に行った。検討の結果、国からの援助の厳しい状況が続く現状では、減免対象を学業成績上位者に限定する新たな減免制度を導入せざるを得ないとの結論に至り、2007年度から実施することとなった。最近の文部科学省等の留学生施策の一つとして質の向上が求められるなど、留学生政策の転換期を迎えているが、国には優秀な留学生確保につながる有効な経済支援の強化を強く要望したい。同時に、本学として可能な留学生支援の拡大について今後も引き続き努力していく必要がある。授業料減免制度を始め、一大学では為せることは限られるが、他大学と共同した国等への働きかけをおこなうことも検討していく必要がある。

## 4. 留学生（送り出し）への経済支援

### ●現状把握

本学が海外の協定校に交換留学生として送り出す学生については、武蔵野美術大学外国留学奨励奨学金規則に基づき月額8万円が贈与される。また、交換留学中の学費については留学期間中（1年間）の授業料が半額免除される。

学生が交換留学協定が結ばれていない海外の大学等へ留学した場合などには、その単位が認定される認定留学の制度がある。認定留学生の学費については、留学期間中（1年間）の授業料が半額免除される。

交換留学のほか一般的な留学に関心を持つ本学学生は相当数いるが、交換留学制度の説明会のほか、一般的な留学に関する説明会も定期的に行われている。

また、国際部長監修のデザイン・アート分野の留学に関する図書も刊行し、指導に役立てている。

留学に関しては経済的支援のほか、海外の教育事情等を提供することが重要となり、国際部では説明会のほか、資料を閲覧に供し、随時窓口での相談にも応じており、本学の留学指導は他大学からも注目されている状況である。

### ●点検評価

交換留学生（送り出し）に関する経済的支援は授業料減免に加えて奨学金も支給されており、高い評価を与えることができる。

### ●改善・改革方策

交換留学生（送り出し）制度の継続的発展を見据え、留学期間中（1年間）の授業料免除及び奨学金支給などの経済支援の充実に向け、法人において財政基盤の確立に努める。

---

C群 各種奨学金へのアクセスを容易にするような学生への情報提供の状況とその適切性

### ●現状把握

新入生に対しては新入生オリエンテーションにおいて説明をするほか、在学生をはじめとする全学生には1号館第2講義室前の奨学金専用掲示板やホームページにて情報を提供するとともに、必要に応じてMusavision（携帯やパソコンからアクセスできる大学の情報システム）を通じて情報の周知徹底を図っている。

### ●点検・評価

例年新学期を起点として、履修・学生生活ほか各種オリエンテーションが集中的に行われている。特に新入生にとって情報過多の時期にあたっており、各人が必要な情報を正確に理解し、行動することには困難が予想される。

同様に、奨学金を必要とする者に対しても、遺漏なく受給可能な奨学金に関する情報を伝達することに困難が予想される。

また、家計急変者に対する本学独自の大奨緊急採用（1人当たり100,000円～592,500円、総額5,925,000円）ならびに日本学生支援機構奨学金における緊急時採用奨学金を受けするためには、様々な前提条件や制約がある。

## 学生生活への配慮

民間や地方が支給する奨学金の種類によって、募集時期・対象学科、支給額、給付・貸与その他受給条件が多様に及ぶ。

これら個別の奨学金情報も、個々の学生が真に理解し利用することは難しい。

上述受給に関する知識・情報を学生が得るためには、学生生活に関わる教職員のバックアップ体制が欠かせない。

一方、相談を受ける教職員が、上記奨学金についての最新の知識・情報を常に保持更新できているとは言いがたい。

### ●改善・改革方策

新入生・在生学生とも、学生生活の中で奨学金が不可欠な者に対し、それら情報をいかに見落とさせずに伝えるかという表示的工夫或は複数の機会を提供する必要がある。特に在生学生に対しては、極力早期に奨学金募集の大まかな時期を告知するなど、注意喚起が有効である。

学生生活課の情報提供に加え、研究室とのより密接な連携協力体制作りが望まれる。

地方自治体や民間団体、また本学の大奨及び日本学生支援機構奨学金のうち「緊急採用」分については、事務局・研究室において、多くの者に予備知識として情報を提供することが求められる。年に一度以上は、学生生活課と教務学生生活委員等の間で、奨学金に関する情報の連絡・更新・確認（＝共有）の機会を持つようにすべきである。

※参考 「学生生活ハンドブック」、奨学金出願・採用状況、「武蔵野美術大学奨学金」推移、「2002 学生生活調査報告書」、大学基礎データ

### 【生活相談等】

---

## A群 学生の心身の健康保持・増進及び安全・衛生への配慮の適切性

### ●現状把握

本学の在生学生は 2007 年 5 月 1 日現在 4,226 名で教職員は非常勤を含めると 1,063 名、計 5,289 名に及ぶが、これら構成員の健康管理を 2005 年度まで保健室は嘱託 2 名、臨時 1 名（月、木、土）で行っていた。また、校医 3 名の勤務日数は月 1 回である。

授業時間は月・木が午後 4 時 10 分まで、それ以外は午後 5 時 50 分である。一方、教育・研究のための施設使用は最大午後 10 時まで延長が可能である。また、課外活動のための施設使用も最大午後 10 時まで延長が可能である。そのため、保健室が閉室となる午後 5 時以降に、体調の不調を訴えたり、外傷などで治療を必要とする状況が時々発生するが、対応について学生手帳には医療機関の案内を載せる、予め救急病院リストを研究室・守衛室へ配付し、守衛室との連携で救急車の手配、近隣病院への連絡が速やかに実施できるようにするなどの方策がとられてきた。

2006 年度より開室時間を午後 8 時まで延長し、嘱託職員 1 名が増員された。

### ●点検・評価

保健室に専任職員の配置を含めた体制の充実が望まれる。保健室の施設について、校医、産業医が執務し健康相談を受ける部屋が手狭で、圧迫感があり、相談に適した環境にはないと思われる。

### ●改善・改革方策

保健室の体制(環境、人員体制)を見直し、専任職員の配置、校医の勤務日数の増加などについて、学生生活課、総務課主導のもとに教務学生生活委員会等で検討することが望まれる。

---

B群 生活相談担当部署の活動上の有効性

C群・生活相談、進路相談を行う専門のカウンセラーやアドバイザーなどの配置状況  
・学内の生活相談機関と地域医療機関等との連携関係の状況

### ●現状把握

保健室には内科医、精神科医、産業医が、学生相談室には精神科医、臨床心理士及び教員が配置されており、医師の治療が必要と思われる学生に対しては、精神科医、臨床心理士より病院を紹介している。

学生相談室の利用者は年々増加傾向にある。その内訳を見ると臨床心理士の担当する曜日に8割近くが集中し、日によっては10人以上の相談もあり、心の悩みを抱える学生が多いということがわかる。男女比についてみると、女子学生比率が約7割にのぼっている。精神科医担当日は勿論、特に臨床心理士担当日には、予約が集中する状況であり、2005年度より月1回多く開室するようにしたがそれでも不十分であるため、2006年度からは週2回の開室とし、学生のニーズに応えられるよう改善を図った。

### ●点検・評価

臨床心理士の相談日を増やすことで充実し、女子学生が多い状況に合った精神科医への依頼など改善を図ったことは評価できる。ただ、開設日が限定されている点、利用者の観点からはまだ十分とは言えない。

校医も学生の相談を受けており、その点で学生相談員(教員)との連携は不可欠のものと考えられるが、十分に機能しにくい環境にある。

### ●改善・改革方策

開設日数については、増加する方向で検討を進めている。保健室校医や研究室とのより一層の緊密な連絡体制の確立について、学生生活課及び教務学生生活委員会等で検討する必要がある。

将来的には保健室、学生相談室を有機的に統合し施設的にも充実した内容を持つ機関に発展させることが望ましく、学生並びに教職員の健康を管理する独立機関として

位置づけることも視野に入れた全学的な検討を開始する必要がある。(別紙資料 2 参照)

---

A群 ハラスメント防止のための措置の適切性

C群 セクシャル・ハラスメント防止への対応

●現状把握

セクシャル・ハラスメントに対してはセクシャル・ハラスメント防止ガイドラインを設け、セクシャル・ハラスメントを防止し、被害が生じた場合の公正な救済を保障することで、適正な教育・研究・就労環境の実現に取り組んでいる。全学生及び教職員に「相談の手引き」を配付し、周知徹底をはかっている。

アカデミック・ハラスメントなど他のハラスメントについても同じ窓口で受け付けているのが現状である。

●点検・評価

セクシャル・ハラスメントについての一般的対策は施されており、教職員や学生への存在についての周知は図られている。

●改善・改革方策

全学生及び教職員に対し、「学生手帳」や「相談の手引き」などによるセクシャルハラスメント防止ガイドラインの周知徹底を継続するとともに、セクシャルハラスメント防止対策委員会において事例の検証を重ねることにより、制度の充実改善を図る。

---

C群 学生生活に関する満足度アンケートの実施と活用の状況

●現状把握

4年に1度、全学生を対象に「学生生活実態調査」を実施している。

2007年4月には新入生を対象としたアンケートを実施した。

●点検・評価

学生の生活状況や意識、要望等を把握することにより、改善を図る姿勢は評価できるが、改善に向けたシステムが構築されていない。

●改善・改革方策

調査実施委員会を中心に、優先的課題を抽出し、執行機関(理事会、教授会、教学委、職員会等)へ提言するシステムを構築するべきである。



C群 不登校の学生への対応状況

●現状把握

実技課題では課題提出期間が定められていることもあり、欠席している学生には研究室より連絡を入れている。不登校の状況にある学生から「連絡や相談があった」場合には、研究室や学生相談室で対応している。

●点検・評価

不登校学生に対する情報について、基本的には所属学科研究室で把握しているが、学生生活課と研究室との更なる連携が望まれる。

●改善・改革方策

各研究室、学生生活課、学生相談室が連携して情報を提供・共有し、学生相談員や教務学生生活委員会委員から不登校学生に呼びかけるなど、状況把握から学生への呼びかけまでのシステム、フローについて、学生生活課、教務学生生活委員会で検討する必要がある。

※ 参考 「学生相談室から」、「学生相談室来談者数（学科・学年・内容・男女別）」、セクシュアル・ハラスメント防止ガイドライン「相談の手引き」2007年改定版、「2002 学生生活調査報告書」、「学生生活実態調査」

【就職指導】

---

A群 学生の進路選択に関わる指導の適切性

C群 学生への就職ガイダンスの実施状況とその適切性

●現状把握

進路選択に関するガイダンスを年3回実施している。学部3年生を対象とするプレガイダンスを7月に実施、9～10月に全体ガイダンスを2回、10月に各学科に対応したガイダンスを開催している。ガイダンスでは、就職ガイド&資料集（就職活動の進め方、主な求人企業、学科別就職先、就職活動体験談、各前年度求人・就職並びに進路等データ等を掲載）を配布している。また、市販の大学生のための就職応援ブックを同時に配布し、Eメールの使い方、エントリーシートの書き方、面接試験の受け答えなどの一般知識を補完している。

また、学部3年生を主な対象として、夏季休業期間を利用した本学主催の「インターンシッププログラム」を実施している。また、企業主催のインターンシップについても自由応募の形で情報提供している。

## 学生生活への配慮

学生の進路状況を見ると、の就職希望者（就職登録者）は全学科・専攻の平均の約6割であり、国内他大学や大学院への進学並びに海外留学は全卒業生の約1割である。就職以外の進路として進学・留学の他、作家希望等独立志向の者も多いのが本学の特徴である。

卒業（修了）後の就職支援のため、進路カードを登録することにより、IDとパスワードを配布し、WEB経由で、進路情報システムにアクセス出来るシステムが利用できる。企業が大学へ提出する求人票に既卒生の応募の可否を表示し、早期離職者など、卒業（修了）後に、進路変更を行う既卒者の就職支援に役立てている。

### ●点検・評価

就職ガイダンスは、7月のプレガイダンスからキャリア全体を視野に入れた内容となっており、就職に限らず作家活動や進学を希望する学生に対する進路全体をカバーしたものになっており、評価できる。

インターンシッププログラムは、主として本学が受入先を開拓し、学内で希望者を選考し推薦する大学主体のもの他、企業・団体等が主催し、学生が主体的に自由に応募する形のものが増えてきている。またインターンシップと並んで、企業内や学内で実技演習を伴うワークショップ形式の職業体験講座を開催している。インターンシップやワークショップに参加する学生が増えており、学生が積極的に取り組む姿勢が伺える。

美術系の就職希望者の就職状況は概ね良好である。他方、作家活動を続けながらアルバイトで生計を立てる者もいるが、生活費、制作費を得るためにかなりの時間働かなければならず、制作時間が制約されるケースもある。

### ●改善・改革方策

卒業後の進路把握について、個人情報保護に十分配慮したうえで校友会を通じたネットワーク形成を就職課、教務学生生活委員会において検討する。

---

## B群 就職担当部署の活動上の有効性

### ●現状把握

就職課は次の就職支援業務を行っている。

- ・卒業修了年次生対象の進路調査・統計の作成（「就職ガイドブック&資料集」）
- ・求人先の開拓（企業来訪対応、学外での求人喚起等）
- ・職業選択の支援・助言＝課員による個人面談
- ・情報の収集・整理・管理・提供
- ・求人情報ファイル等各種情報提供、PC（IDパスワードによるWEB経由の検索を含む）による情報検索、「進路インフォメーション誌」の発行、企業内定実績者のポートフォリオ（作品集）の閲覧

- ・進路ガイダンス、進路・就職講座、職種研究会等の実施
- ・学内会社説明会
- ・インターンシップ（単位認定はなし）等のキャリア育成業務（受け入れ先確保、募集説明会開催、参加希望受付、選考、実施先訪問を含む対応、参加学生による報告会、体験記の印刷物作成等）

#### ●点検・評価

求人数の増加、企業の厳選採用等の影響から、企業応募時のエントリーシートや作品面談対応等について、個人面談に対する学生のニーズが高まっている。

インターンシップは正課授業としての位置づけがないが、就職課がサポートし、全学的な取り組みとして行われている。

#### ●改善・改革方策

景気動向等外的な要因による業務内容や業務量の変化に対応できる的確な体制を整備すべきである。

---

### C群 就職指導を行う専門のキャリアアドバイザーの配置状況

#### ●現状把握

資格保有者としてのキャリアアドバイザーは配置されていない。大学職業指導研究会等の各種外部研修に参加し就職課員の研鑽に配慮している。

#### ●点検・評価

個人情報保護法の施行、若年者の離職率の高さ、労働法等の適切な理解など、個人面談が次第に大きな比重を占めるようになりつつある就職課業務において、広範なキャリア形成についての基礎的知識が学生指導上重要性を増している。

#### ●改善・改革方策

美術系大学という特質を考えると、個人面談時には、美術系の専門職種に対応する知識と、キャリアに対する一般的な基礎知識を同時に有する人材が必要である。計画的に本学教職員をキャリアアドバイザーとして育てることが望ましく、事務系専任職員の育成など人事政策の観点から総合的に検討することが求められる。

---

### C群 就職活動の早期化に対する対応

### ●現状把握

インターンシップ、プレガイダンス等、社会への導入を3年生に集中させている。但し、インターンシップの一部のプログラムは学年を問わず参加可能な場合もある。

情報提供としては、掲示や印刷物を通じて、各学年対象に提供しており、進路講座、業種職種研究会、学内において開催される個別会社説明会への参加も、基本的には対象学年優先ではあるが、余席がある場合は対象学年以外でも参加できる。

進路相談への対応は、3年生のうち進路カードを提出した学生を対象としている。2年生までの学生には、窓口対応以外の特別な便宜を図っていない。インターンシップについては学年指定の無い場合は、対象学年以外の低学年の参加も可能となっている。

業種によっては学部3年生の秋から募集活動を開始する企業もあり、大学側から採用開始の時期を遅らせるように要望している。

また、社団法人日本経済団体連合会の「企業の倫理憲章」（正式な内定日を10月1日以降とする申し合わせ）については、「2007 就職ガイドブック&資料集」に全文を掲載し学内への周知を図っている。

### ●点検・評価

企業側は新卒一括採用だけでなく、中途採用にも次第に力を入れつつあるが、多くの中途採用の条件においては「指定職種の一定期間の就業経歴」を要求しており、新卒時に正社員として採用されない限り、転職する場合に正社員としての就職が困難になるという現実がある。本学学生が美術・デザイン系専門職の正社員として就職することを望むのならば、就職活動の早期化にかかわらず、3年生後期には、一定水準のポートフォリオ（作品集）を作成するなど、十分な事前準備が必要である。

### ●改善・改革方策

就職活動の早期化に対する対応については、教育現場である各学科研究室と、学生相談の窓口である学生・就職相談担当事務局とが、密接な連携を構築する必要がある。

---

## C群 就職統計データの整備と活用の状況

### ●現状把握

就職統計データとしては、毎年「就職ガイドブック&資料集」を制作し、3年生や各研究室・部課室に配布している。内容は、次のとおりである。

- ①年度別卒業生の進路状況集計表（造形学部・大学院別）
- ②就職決定者の応募状況
- ③職種別求人と決定者数
- ④地方別求人数と決定者数
- ⑤業種別求人件数と決定者数
- ⑥過去3年間の月別求人件数

⑦年間求人件数の推移（1993年度から2005年度）

⑧各年度卒業生の進路状況（業種別）～各学科別の進路先

これらの統計資料の基礎データの作成に当たっては、進路カードや郵送調査ならびに卒業後の電話による追跡確認調査などにより就職課員が情報を収集しているが、データ作成の作業に多大な時間を要している。

### ●点検・評価

各統計資料については本学の専門性を踏まえ、多角的観点から分析するなど工夫を凝らし、進路決定や就職活動の参考統計資料として有効に活用されている。

### ●改善・改革方策

就職を取り巻く経済・労働環境の変化から企業の動向などの幅広い情報を的確にわかりやすく伝達できるような工夫を凝らし、より効果的な情報のあり方を就職課や進路専門委員会などで検討する。

※ 参考 「就職資料集 2004～6」、「就職ガイドブック 2004～6」、「2007 就職ガイドブック&資料集」  
「進路インフォメーション」、「第1回就職ガイダンス次第表紙」、「人 発見」

## 【課外活動】

---

A群 学生の課外活動に対して大学として組織的に行っている指導、支援の有効性

### ●現状把握

①課外活動施設

学生食堂は学内に2ヶ所あり、4,226名の学生に対し、席数は840である。

画材用具などを販売する売店が学内に1ヶ所あり、売場面積は131.5㎡である。

課外活動におけるサークル数は46(スポーツ系22、文化系24 2006.07.01現在)で、サークル部室等床面積は2006.07.01現在以下のとおりである。

・ホールB号館

1F：18室 (361.58㎡)

3F：9室 (206.33㎡)

3F：音楽スタジオ4室 (153.36㎡)

・ホールC号館

1F：2室 (180.48㎡)

2F：スポーツ系サークル1室共用 (158.13㎡)

②芸術祭について

芸術祭は、大学からの200万円程度の補助を基に、10月下旬から2週間学生の自

## 学生生活への配慮

治的組織により運営されている。芸術祭期間については、以前芸術祭が授業科目の一部(必修)として位置づけられていた時期の伝統から2週間という期間が継承されてきた。

### ③ 課外講座の実施

国内外を問わず各分野の専門家を招致し全学生を対象とした課外講座を年間30件以上実施している。講師には謝礼、交通費を支給している。別表参照。かつては大学全体で開催していたが、その後研究室主導の講師および開催期間決定システムとなり現在に至っている。課外講座の実施日が重なるケースがあったが、2006年度より重複開催を避けるよう徹底している。

### ④ 課外教育活動の支援

古美術研究旅行やスケッチ旅行、ワークショップ、ゼミ合宿、施設見学、スキー教室などの課外教育活動に対し、引率者への旅費・宿泊費・施設見学費等を補助し、大学負担で参加者全員保険加入するなどの支援をしている。

また、サークル活動費を補助しているほか、年間を通じてのゼミナールやサークル顧問への一定金額の支援を行っている。

### ⑤ 福利厚生施設

古美術の修復家として知られた故新納忠之介氏の旧宅を大和棟高塀造民家の姿をとどめるよう修復した奈良寮がある。学生は1泊2,000円で利用できる。奈良寮は、正倉院や東大寺、奈良国立博物館をはじめ奈良・京都の周辺施設に近く、古美術研究旅行等幅広く利用されている。

富山県越中五箇山には建築的・美的価値の保存と自然活用という観点から合掌造り民家を改修した五箇山無名舎がある。学生は1泊1,300円で利用できる。五箇山無名舎は、昔のままの合掌造りの家での生活を体験できる貴重な研究保養施設として学生教職員の利用に供している。

八ヶ岳南麓には清里山荘がある。学生は1泊2,000円で利用できる。清里山荘は、自然の中でのスケッチ旅行やゼミの合宿研修など課外教育活動の場として活用されている。各施設とも卒業生の利用が認められている。

## ● 点検・評価

### ① 課外活動施設

学生食堂の席数が不十分である。昼食の混雑時には食堂の外にまで学生が溢れている。

画材店のスペースが狭く、学生のニーズには十分に答えられていない。

課外センターでは、部室の各ブースが入り組んでいて整頓されていないため、安全性に不安がある。

食堂については、メニューの種類、内容、量、価格などについて学生からの不満が多く、改善が望まれている。

コンビニエンス・ストアなどの学内導入、食事や談話に使えるフリースペースの確保が望まれる。

②芸術祭

芸術祭の開催期間について検討を要する。

③課外講座

講師の謝礼基準について1講座に講師が数人出席した場合などの基準が現実と合致しているか疑問がある。

④課外教育活動の支援

サークルを指導する体制が明確でない。

⑤福利厚生施設

有効に活用されている。

●改善・改革方策

①課外活動施設

現在の課外センターとは別に、食堂・喫茶を含む学生用サロンや、展示、表現活動としての演劇や音楽のコンサートなどが可能な多目的学生ホールの建設が望まれる。

学生の制作活動の幅広いニーズに応えられるよう画材店のスペースを拡張する。現在4号館の保存改修後の活用に関連して、画材店のスペース拡張が計画されている。

サークル室は平成19年夏に改修工事が行われ、安全対策が施された。

②芸術祭

芸術祭祭典期間が2007年度より3日間に短縮された。

③課外講座

課外講座謝礼金の基準を実態に即して見直すべく、学生生活課、教務学生生活委員会において検討するべきである。

④課外教育活動

指導の必要性をはじめ、顧問兼務の制限など制度の内容、範囲について、より具体的にする必要はある。

⑤福利厚生施設

今後も定期的な補修、改修を計画的に行うことにより、施設の安全性や快適性をより高めるよう努める。(別紙資料4、5、6参照)

C群 学生の課外活動の国内外における水準状況と学生満足度

●現状把握

大学公認の文化系 24 団体、スポーツ系サークルが 22 団体程度存在し、スポーツ系は

主に学生間や大学間で親睦を深めることを目的に活動をしている。文化系は研究、親睦を主としつつ、大学周辺や地域の子もたちとの交流を図るサークル活動やワークショップを通じて地域と連携した活動をする団体もある。また、小平市の協力で毎年市営公園にて小平野外彫刻展を開催している。

●点検・評価

美術の普及に多少の貢献は認められているとはいうものの、親睦を主眼にしていることもあり内外に誇れる程度のもは少ない。その中で、競技ダンス部の「2004 年東部学生競技ダンス選手権大会ラテン新人戦」ルンバ部門第 7 位、サイクリング部の「1998 年緑山スタジオシティーカップ 2 時間耐久レース」グループクラス第 3 位、1999 年ヒラキカップ 150 分耐久レース」3 人チームクラス第 2 位、総合第 4 位、ラテン音楽研究会が 1999 年、2000 年、2001 年、2002 年、2003 年浅草サンバカーニバル優勝、2004 年同準優勝（他大学との協同）などの成績を修めている。

全体的に、活動をしている学生から不満の声は特にあがっていない。

●改善・改革方策

他学科の学生との交流や会員相互の親睦等を目的とする各サークルの主旨を踏まえつつ、更なる活動の活発化に向け、指導・支援を行う。

---

C群 学生代表と定期的に意見交換を行うシステムの確立状況

●現状把握

学生の自治組織である課外活動協議会と年 1 回の会合を持ち、また必要に応じて代表者と打合せを行っている。

●点検・評価

学生が何を望んでいるのかを大学が吸収していくためには、話し合いの機会が少ない。

課外活動協議会自体の空洞化が進んでいる。

●改善・改革方策

課外活動協議会自体の活動の実質化が望まれる。学生（代表機関）との日頃のコミ



コミュニケーションを通じて一体となった学生生活支援環境を整えていく必要がある。

※参考 「学生生活ハンドブック」、「2002 学生生活調査報告書」

## 2) 大学院

### 【学生への経済的支援】

---

A群 奨学金その他学生への経済的支援を図るための措置の有効性、適切性

#### ●現状把握

大学院博士前期課程（修士課程）の収容定員は112名で在學生は206名である。修士課程固有の奨学金制度はない。

博士後期課程の収容定員は18名で在學生は23名である。入学時の申請に基づき、授業料の半額が奨学金として全員に支給されている。

#### ●点検・評価

修士課程の学生を対象とした奨学金制度の実施など充実が望まれる。

#### ●改善・改革方策

修士課程について、80周年記念事業の中で新たな制度が計画されているが、更なる充実に向け、全学的な検討が必要である。

---

C群 各種奨学金へのアクセスを可能にさせるための方途の適切性

#### ●現状把握

新入生に対しては新入生オリエンテーションにおいて説明をするほか、在學生をはじめとする全學生には1号館第2講義室前の奨学金専用掲示板やホームページにて情報を提供するとともに、必要に応じて Musavision（携帯やパソコンからアクセスできる大学の情報システム）を通じて情報の周知徹底を図っている。

#### ●点検・評価

例年新学期を起点として、履修・学生生活ほか各種オリエンテーションが集中的に行われている。特に新入生にとって情報過多の時期にあたり、各人が必要な情報を正確に理解し、行動することには困難が予想される。

## 学生生活への配慮

同様に、奨学金を必要とする者に対しても、遺漏なく受給可能な奨学金に関する情報を伝達することに困難が予想される。

また、家計急変者に対する本学独自の大奨緊急採用(1人当たり100,000円～592,500円総額5,925,000円)ならびに日本学生支援機構奨学金における緊急時採用奨学金を受けするためには、様々な前提的条件や制約がある。

民間や地方が支給する奨学金の種類によって、募集時期・対象学科、支給額、給付・貸与その他受給条件が多様に及ぶ。

これら個別の奨学金情報も、個々の学生が真に理解し利用することは難しい。

上述受給に関する知識・情報を学生が得るためには、学生生活に関わる教職員のバックアップ体制が欠かせない。

一方、相談を受ける教職員が、上記奨学金についての最新の知識・情報を常に保持更新できているとは言いがたい。

### ●改善・改革方策

新入生・在學生とも、学生生活の中で奨学金が不可欠な者に対し、それら情報をいかに見落とさせずに伝えるかという表示的工夫或は複数の機会を提供する必要がある。特に在學生に対しては、極力早期に奨学金募集の大まかな時期を告知するなど、注意喚起が有効である。

学生生活課の情報提供に加え、研究室とのより密接な連携協力体制づくりが望まれる。

地方自治体や民間団体、また本学の大奨及び日本学生支援機構奨学金のうち「緊急採用」分については、事務局・研究室において、多くの者に予備知識として情報を提供することが求められる。年に一度以上は、学生生活課と教務学生生活委員等の間で、奨学金に関する情報の連絡・更新・確認(=共有)の機会を持つようにするべきである。

※参考 「学生生活ハンドブック」、奨学金出願・採用状況、「武蔵野美術大学奨学金」推移、「2002 学生生活調査報告書」、大学基礎データ

### 【生活相談等】

---

## A群 学生の心身の健康保持・増進及び安全・衛生への配慮の適切性

### ●現状把握

本学の在學生は2007年5月1日現在4,252名で教職員は非常勤を含めると1,063名、計5,315名に及ぶが、これら構成員の健康管理を2005年度まで保健室は嘱託2名、臨時1名(月、木、土)で行っていた。また、校医3名の勤務日数は月1回である。

授業時間は月・木が午後4時10分まで、それ以外は午後5時50分である。一方、教育・研究のための施設使用は最大午後10時まで延長が可能である。また、課外活動

のための施設使用も最大午後 10 時まで延長が可能である。そのため、保健室が閉室となる午後 5 時以降に、体調の不調を訴えたり、外傷などで治療を必要とする状況が時々発生するが、対応について学生手帳には医療機関の案内を載せる、予め救急病院リストを研究室・守衛室へ配付し、守衛室との連携で救急車の手配、近隣病院への連絡が速やかに実施できるようにするなどの方策がとられてきた。

2006 年度より開室時間を午後 8 時まで延長し、嘱託職員 1 名が増員された。

#### ●点検・評価

保健室に専任職員の配置を含めた体制の充実が望まれる。保健室の施設について、相談に適した十分な環境にはないと思われる。

#### ●改善・改革方策

保健室の体制(環境、人員体制)を見直し、専任職員の配置、校医の勤務日数の増加などについて、学生生活課、総務課主導のもとに教務学生生活委員会等で検討することが望まれる。

---

### A 群 ハラスメント防止のための措置の適切性

#### ●現状把握

セクシャル・ハラスメントに対しては、セクシャル・ハラスメント防止ガイドライン設け、セクシャル・ハラスメントを防止し、被害が生じた場合の公正な救済を保障することで、適正な教育・研究・就労環境の実現に取り組んでいる。全学生及び教職員に「相談の手引き」を配付し、周知徹底を図っている。アカデミック・ハラスメントなど他のハラスメントについても同じ窓口で受け付けている。

#### ●点検・評価

セクシャル・ハラスメント防止についての一般的対策は施されており、その存在について、教職員や学生への周知は図られている。

#### ●改善・改革方策

全学生及び教職員に対し、「学生手帳」や「相談の手引き」などによるセクシャルハラスメント防止ガイドラインの周知徹底を継続するとともに、セクシャルハラスメント防止対策委員会において事例の検証を重ねることにより、制度の充実改善を図る。

## 【就職指導等】

---

### A群 学生の進路選択に関わる指導の適切性

#### ●現状把握

「ガイダンス」（年3回実施）については造形学部と同時開催している。同ガイダンス時に「就職ガイドブック&資料集」（学部と同じもの）を配布している。

修士1年生を主な対象とし、夏季休業期間を利用した「インターンシップ・プログラム」を実施している。

学部生に比較し就職希望者比率は低い。一方、大学院生の就職率（就職希望者のうち実際に就職した者の割合）は高い（資料参照）。

#### ●点検・評価

就職ガイダンスは、7月のプレガイダンスからキャリア全体を視野に入れた内容となっており、就職に限らず作家活動や進学を希望する学生に対する進路全体をカバーしたものになっており、評価できる。

インターンシッププログラムは、主として本学が受入先を開拓し、学内で希望者を選考し推薦する大学主体のもののほか、企業・団体等が主催し、学生が主体的に自由に応募する形のものが増えてきている。またインターンシップと並んで、企業内や学内で実技演習を伴うワークショップ形式の職業体験講座を開催している。

インターンシップやワークショップに参加する学生が増えており、学生が積極的に取り組む姿勢が伺える。

美術系の就職希望者の就職状況は概ね良好である。他方、作家活動を続けながらアルバイトで生計を立てる者もいるが、生活費、制作費を得るためにかなりの時間働かなければならず、制作時間が制約されるケースもある。

企業においては、大学院修了者の高い専門性を踏まえ、初任給を一般的に学部卒より高く設定することから、学部卒・修士課程修了の双方を募集対象としている場合、学部卒の学生を求める傾向がある。

#### ●改善・改革方策

就職課は、企業に対して大学院修了者の能力の高さや有用性について理解を得るよう努めるとともに、大学院生が大学院で獲得する様々な高度な能力を十分発揮することができ、大学院修了者を正當に評価する企業・団体等の就職先を教員の情報提供を得つつより広く開拓し、情報を学生に周知する努力が必要である。大学院生の進路について進路指導専門委員会で検討することも必要である。

※参考 「2007 就職ガイドブック&資料集」、「進路インフォメーション」、「進路・就職ガイダンス次第」

<資料1-1> 武蔵野美術大学関係奨学金一覧

名 称	種 別	対象者	応募条件	人数	支給額
武蔵野美術大学奨学金	給付	大学学部・大学院	前年度成績3.2以上、 家計困窮者	115	592,500円
武蔵野美術大学奨学金（緊急採用）	給付	同 上	主たる家計支持者の病気・ 死亡等による家計急変	10	100,000～ 592,500円
武蔵野美術大学大学院博士 後期課程奨励奨学金	給付	同 上	大学院博士後期課程在籍者 （3年間を限度）	正規在籍者	592,500円
武蔵野美術大学外国留学奨 励奨学金	給付	同 上	送り出し協定交換留学生	4	592,500円
武蔵野美術大学私費外国人 留学生奨学金	給付	同 上	私費外国人留学生で、人 物・成績優秀者	6	300,000円
武蔵野美術大学校友会奨学 金	給付	同 上	学部4年次生で、人物・成 績優秀者	4	200,000円
武蔵野美術大学校友会緊急 特別奨学金	給付	同 上	学部・大学院、生活困窮者	若干	200,000円（前期） 500,000円（後期）
武蔵野美術大学私費外国人 留学生授業料減免	減免	同 上	私費外国人留学生で、人 物・成績優秀者	条件充足者	授業料の30%
武蔵野美術大学高井幸子奨 学金	給付	同 上	同 上	2	250,000円
三雲祥之助賞	給付	大学院修士、美術専攻 油絵コース	本学油絵学科卒業生（研究 室推薦）	2（2年間）	100,000円
清水多嘉示賞	給付	大学院修士、美術専攻 彫刻コース	本学彫刻学科卒業生（研究 室推薦）	2（2年間）	100,000円
飯田三美賞	給付	大学院修士、デザイン専 攻工芸工業Dコース	本学工芸工業デザイン学科卒 業生（研究室推薦）	2（2年間）	100,000円
三林亮太郎賞	給付	大学院修士、デザイン専 攻空間演出Dコース	本学空間演出デザイン学科卒 業生（研究室推薦）	2（2年間）	100,000円
杉村奨学金	給付	学部空間演出デザイン学 科	（研究室推薦）	1	100,000円
橋本修英奨学金	給付	大学院修士、デザイン専 攻建築コース	（研究室推薦）	1	100,000円
岡井奨学金	給付	大学院修士、デザイン専 攻視覚伝達Dコース	私費外国人留学生（研究室 推薦）	1	100,000円
根岸奨学金	給付	大学院修士、美術専攻 油絵コース	学部在籍中絵画組成履修、 成績優秀者（研究室推薦）	1	100,000円

学生生活への配慮

<資料1-2> 武蔵野美術大学奨学金学年別採用者数(2002～2006年度)

採用者数/配分人数

年度 学年	2006年度	2005年度	2004年度	2003年度	2002年度
学部1年	26/26	42/45	47/50	46/49	46/49
学部2年	23/23	27/29	24/26	24/27	21/23
学部3年	23/23	17/19	17/19	16/18	21/23
学部4年	24/24	21/14	20/13	23/15	21/14
大学院1年	9/9	3/5	4/5	4/5	4/5
大学院2年	10/10	5/3	3/2	2/1	2/1
合 計	115/115	115/115	115/115	115/115	115/115

武蔵野美術大学奨学金学年別出願者数(2002～2006年度)

適格者数/出願者数

年度 学年	2006年度	2005年度	2004年度	2003年度	2002年度
学部1年	168/179	213/234	240/255	214/228	193/215
学部2年	135/138	139/147	125/128	118/125	93/111
学部3年	92/96	91/96	91/94	79/82	90/95
学部4年	65/66	64/66	64/66	68/69	57/59
大学院1年	18/27	24/30	23/26	22/26	21/26
大学院2年	12/12	14/14	10/11	6/6	3/4
合 計	490/518	545/587	553/580	507/536	457/510

<資料1-3> 一人あたり奨学金額推移表

(学部・大学院修士課程)

年度	一人あたり奨学金額 (円)	採用定員枠		定員外数	計 (人)	学則定員数
		正規採用人数	緊急採用枠	留学生 (外数)		
2002	440,000	115	10	留学生課で確保	125	125
2003	592,500	115	10	留学生課で確保	125	125
2004	592,500	115	10	留学生課で確保	125	125
2005	592,500	115	10	留学生課で確保	125	125
2006	592,500	115	10	留学生課で確保	125	125
2007	592,500	115	10	留学生課で確保	125	125

(大学院博士後期課程)

2004	592,500	11	—	—	11 (うち留学生2)	奨励奨学金規則に定める
2005	592,500	7	—	—	7 (うち留学生3)	
2006	592,500	6	—	—	6 (うち留学生2)	
2007	592,500	6	—	—	6 (うち留学生3)	

学生生活への配慮

<資料2> 短期貸付金制度

大学名	金額 (円)	返済期限	持参するもの	備考
武蔵野美術大学	¥10,000	1ヶ月以内	学生証、印鑑、借用書	2,000円単位、年3回まで
立教大学	¥10,000	1ヶ月以内	学生証、印鑑	千円単位、年3回まで
上智大学	¥10,000	1ヶ月以内	学生証、印鑑、借用書 上智大学生の連帯保証人	千円単位、年3回まで、連帯保証人も 学生証、印鑑必要
法政大学	¥10,000	1ヶ月以内	誓約書、申請書	金額、期間延長可
桜美林大学	¥15,000	1ヶ月以内	学生証	教員遺族からの寄付を運用
東京薬科大学	¥20,000	2ヶ月以内	学生証	
津田塾大学	¥30,000	1ヶ月以内	借用証書提出	緊急帰省、急病その他
京都産業大学	¥30,000			教材、医療、生活費、課外、就活
早稲田大学	¥30,000			不測事態に限定、生活費×、留学生 ×
関西学院大学	¥30,000	3ヶ月以内	学生証、印鑑、即日可	緊急帰省、急病、火災時等には4万円 まで、自宅外生が原則
中央大学	¥30,000	3～6ヶ月以内	学生証、印鑑	事務長許可で10万円まで
南山大学	¥50,000	1ヶ月以内	申請書、面談、3日後	1口、10,000円
専修大学	¥10000～ ¥60,000	1ヶ月以内、就職活動 に限って3ヶ月以内	学生証、印鑑、面接 即日可	就職活動の場合は1万円以上6万円ま で可
青山学院大学	¥9,000	1ヶ月以内	学生証、印鑑	(学生金庫)
明治学院大学	¥5,000	1ヶ月以内		(短期貸付)
		6ヶ月以内		(特別貸付) 学納金のみ
山梨学院大学		(1人1回)		就職活動短期貸付制度



<資料3-1-1> 2004年度学生相談室来談者数（学科・男女別）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2005年 1月	2月	3月	合計	
日本画	男	1												1	6
	女	2	2					1						5	
油絵	男	1		1					1					3	18
	女	3	1	4	3			2	2					15	
彫刻	男		1		1									2	11
	女						4				1	1	3	9	
視デ	男													0	11
	女	1	2	2			1	1	2				2	11	
工デ	男													0	33
	女	2	4	4	5		3	7	3	3	1	1		33	
空デ	男													0	17
	女			7	2		3	1	2		1		1	17	
建築	男							1						1	35
	女	3	6	4	3	3	3	5	1	2	1	1	2	34	
基礎デ	男			1										1	19
	女	2	1	2			2	1	2	3	2	1	2	18	
映像	男													0	0
	女													0	
芸文	男	2	2		2		4	5	4	5	2	1	3	30	51
	女	3	1	2	5	1	1	3	1	2	2			21	
デ情	男						2	5	2	3	3	1	3	19	23
	女	2			1		1							4	
教職員	男	3					1		1					5	11
	女		2		2			1	1					6	
その他	男													0	5
	女		1	1				1		2				5	
計	男	7	3	2	3	0	7	11	8	8	5	2	6	62	240
	女	18	20	26	21	4	18	23	14	12	8	4	10	178	
合計		25	23	28	24	4	25	34	22	20	13	6	16	240	

学生生活への配慮

<資料3-1-2> 2004年度学生相談室来談者数（相談内容別）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2005年 1月	2月	3月	合計	
学業	男				1			2	2	1		1	2	9	32
	女	3	2	5	2		2	4	4				1	23	
就職・進路	男	1	1						1		2	1	2	8	23
	女	2	1	1	2		2		2	1	1		3	15	
友人・異性	男	1												1	14
	女			3	4			1	2	1	1		1	13	
家族	男	2			1									3	12
	女	3		1				1		2			2	9	
健康・身体	男		1				2	5	3	2				13	34
	女		2	4	2		5	3	2	1	1	1		21	
心の悩み	男	3	1	2	1		5	4	2	5	3		2	28	113
	女	10	12	10	9	4	7	14	3	7	5	2	2	85	
経済上	男													0	0
	女													0	
宗教	男													0	0
	女													0	
生活上	男													0	3
	女			2								1		3	
トラブル その他	男													0	9
	女		3		2		2		1				1	9	
計	男	7	3	2	3	0	7	11	8	8	5	2	6	62	240
	女	18	20	26	21	4	18	23	14	12	8	4	10	178	
合計		25	23	28	24	4	25	34	22	20	13	6	16	240	

<資料3-2-1> 2005年度学生相談室来談者数（学科・男女別）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2006年 1月	2月	3月	合計	
日本画	男													0	2
	女	1	1											2	
油絵	男	1			2		1	1	1					6	23
	女	1	1	6	4		1		3				1	17	
彫刻	男	1					1	1		1				4	23
	女	1	1	4	3		4	1	2	1		1	1	19	
視デ	男													0	4
	女	2		1				1						4	
工デ	男			1	1									2	37
	女	9	5	4	3	1	2	1	2	3	3	1	1	35	
空デ	男													0	4
	女			1			1	2						4	
建築	男		1											1	30
	女	5	3	2	2		2	3	4	3	2	2	1	29	
基礎デ	男													0	11
	女	4	2		1			1	1		2			11	
映像	男	2	2	1			1		1	1	1			9	11
	女			1						1				2	
芸文	男	3	4	5	3		2	2	3	2	3			27	51
	女	4	6	7	3		2	1	1					24	
デ情	男	5	3	1										9	17
	女	5		1	1					1				8	
院生	男													0	6
	女		1				4	1						6	
教職員	男		1				1	3		5				10	21
	女	1						2		3		1	4	11	
その他	男					1	1							2	6
	女	1			1			1	1					4	
計	男	12	11	8	6	1	7	7	5	9	4	0	0	70	246
	女	34	20	27	18	1	16	14	14	12	7	5	8	176	
合計		46	31	35	24	2	23	21	19	21	11	5	8	246	

学生生活への配慮

<資料3-2-2> 2005年度学生相談室来談者数(相談内容別)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2006年 1月	2月	3月	合計	
学業	男			1	2			1	1		1			6	31
	女	4	2	2	3		1		5	2	3	2	1	25	
就職・進路	男	4	4	1	1	1	1							12	29
	女	3	1	1	2			4	2		2	2		17	
友人・異性	男	2							1					3	11
	女	2	3	1			2							8	
家族	男	1	1	3	1						1			7	12
	女		1	2	2									5	
健康・身体	男	1	2	2	1		1				1			8	37
	女	6	4	6	2		4	3	1	2	1			29	
心の悩み	男	4	4		1		4	3	2	3	1			22	98
	女	15	8	14	7	1	8	6	6	5	1		5	76	
経済上	男													0	0
	女													0	
宗教	男													0	0
	女													0	
生活上	男								1					1	7
	女	2		1	2								1	6	
トラブル その他	男			1			1	3		6				11	21
	女	2	1				1	1		3		1	1	10	
計	男	12	11	8	6	1	7	7	5	9	4	0	0	70	246
	女	34	20	27	18	1	16	14	14	12	7	5	8	176	
合計		46	31	35	24	2	23	21	19	21	11	5	8	246	

<資料3-3-1> 2006年度学生相談室来談者数(学科・男女別)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2007年 1月	2月	3月	合計	
日本画	男													0	9
	女	1	1			1		3	3					9	
油絵	男		1									1		2	20
	女	4	2	3	2		3	1		1	1		1	18	
彫刻	男												2	2	46
	女	3	5	5	4	2	4	3	5	3	5	1	4	44	
視デ	男													0	14
	女			6	3		4	1						14	
工デ	男			1										1	27
	女	5	9	3	1		4	1	1	1			1	26	
空デ	男													0	10
	女	1	4	3	1	1								10	
建築	男						1	3	3					7	12
	女	2	2		1									5	
基礎デ	男	1											2	3	13
	女	2	1	1			1	4		1				10	
映像	男		1	1			1	1	1		3			8	10
	女				1			1						2	
芸文	男								1	3				4	52
	女	4	4	2	1	3	3	8	8	7	3	1	4	48	
デ情	男													0	21
	女	1	4	5	4	1	2	3		1				21	
院生	男													0	6
	女		1	1						4				6	
教職員	男	2		1	4	1	3	1	1	1				14	26
	女		2					5		4	1			12	
その他	男			5	1	1	1							8	29
	女	3	2	4		2	1	2		2	5			21	
計	男	3	2	8	5	2	6	5	6	4	3	1	4	49	295
	女	26	37	33	18	10	22	32	17	24	15	2	10	246	
合計		29	39	41	23	12	28	37	23	28	18	3	14	295	

学生生活への配慮

<資料3-3-2> 2006年度学生相談室来談者数(相談内容別)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2007年 1月	2月	3月	合計	
学業	男			1				2	1				1	5	30
	女	4	4	3	2		1		2	3	3	1	2	25	
就職・進路	男			2							1	1		4	24
	女	6	3	4	2		2		1		1		1	20	
友人・異性	男						1	1						2	27
	女	1	1	3	1		8	6	3	1	1			25	
家族	男				2	1	3	1		1			1	9	25
	女		2	2		3		2	1		3		3	16	
健康・身体	男	1					1	1	1		1			5	58
	女	7	8	2	6	2	8	5	5	6	3		1	53	
心の悩み	男		1	3	1				3	3			2	13	80
	女	7	11	14	5	4	2	8	4	8	1		3	67	
経済上	男													0	2
	女							1			1			2	
宗教	男													0	0
	女													0	
生活上	男	1					1				1			3	18
	女	1	3	3	2	1		1	1	1	1	1		15	
トラブル その他	男	1	1	2	2	1			1					8	31
	女		5	2			1	9		5	1			23	
計	男	3	2	8	5	2	6	5	6	4	3	1	4	49	295
	女	26	37	33	18	10	22	32	17	24	15	2	10	246	
合計		29	39	41	23	12	28	37	23	28	18	3	14	295	

<資料4> 芸術祭企画概要

【企画数】

	2006年度	2005年度
展示	405	402
催し物	40	48
模擬店	37	37
ライブハウス	4	4
屋台	15	14

【来場者数】 (4日間合計・守衛室調べ)

	2006年度	2005年度
来場者数 (外来者)	33,663	32,929
	*本学学生含む	*本学学生含む

2006年度

企画名	場所	内容
「aer (アエラ)」	体育館2階アリーナ	ファッションショー
野外フェスティバル (芸実委企画)	12号館前広場 (屋外ステージ)	ライブコンサート、他
交流展 (五美大展)	12号館B1F展示室	作品展示
五感展 (企画展)	9号館B1F展示室	作品展示
森本千絵 (ゲスト企画)	体育館2階アリーナ	トークショー
イルミネーション	正門～1号館	イルミネーション
ワークショップ	5A号館108教室	ペインティング

2005年度

企画名	場所	内容
「SO-MATO-」・「わや」	体育館2階アリーナ	ファッションショー
野外フェスティバル (芸実委企画)	12号館前広場 (屋外ステージ)	ライブコンサート、他
交流展 (五美大展)	12号館B1F展示室	作品展示
繫 (企画展)	9号館B1F展示室	作品展示
仲畑貴志 (ゲスト企画)	体育館2階アリーナ	トークショー
花火	グラウンド	花火
ワークショップ	10号館1F三角スペース 13号館1Fエントランス前	制作イベント
展示・レストスペース	ホールA2F	展示・レストスペース

学生生活への配慮

<資料5-1> 2005年度 武蔵野美術大学サークル一覧

No	スポーツ系	部員数	
		男	女
	公認サークル (23団体)		
1	キックボクシング部	10	0
2	弓道部	16	26
3	競技ダンス部	4	12
4	剣道部	6	5
5	硬式テニス部	2	23
6	サイクリング部	11	13
7	サッカー部	35	5
8	少林寺拳法部	0	10
9	スキューバダイビング部	7	30
10	セーリング部	5	8
11	ソフトボール部	4	6
12	太極拳研究会	8	4
13	軟式野球部	9	7
14	バスケットボール部	15	16
15	バドミントン部	7	13
16	バレーボール部	15	33
17	パンチスタ	10	10
18	MWFプロレスリング	9	1
19	ラグビー部	15	2
20	リーゼンスキークラブ	5	13
21	ワンダーフォーゲル部	9	18
	<新設サークル>		
22	クラシックバレー	2	15
23	フットサークル	26	6
	合計	230	276

No	文化系	部員数	
		男	女
	公認サークル (20団体)		
1	映画研究会	10	5
2	映像部	6	4
3	Audio Rogue	2	11
4	ガラス研究会	3	43
5	軽音楽同好会	25	17
6	劇団むさび	6	27
7	サウンド研究会	5	5
8	写真部	11	18
9	造形教育研究会アトリエちびくろ	7	25
10	彫塑部	10	0
11	Tシャツ集団フラッパーズ	22	52
12	東京五美術大学管弦楽団	6	24
13	版画部	4	19
14	漫画研究会	11	19
15	M. E. S. A (ムサビ・イングリッシュ・スピーキング・アソシエーション)	3	10
16	MODERN JAZZ SOCIETY	12	25
17	窯工研究会	16	42
18	ラテン音楽研究会	1	17
19	ロック研究会	15	6
	<新設サークル>		
20	人形劇団ダニ族	0	10
	合計	175	379

<廃止サークル>

卓球部

防具空手部



<資料5-2> 2006年度 武蔵野美術大学サークル一覧

No	スポーツ系	部員数	
		男	女
	公認サークル (22団体)		
1	キックボクシング部	11	0
2	弓道部	14	22
3	競技ダンス部	14	14
4	剣道部	6	8
5	硬式テニス部	29	26
6	サイクリング部	5	11
7	サッカー部	21	6
8	少林寺拳法部	2	8
9	スキューバダイビング部	2	13
10	セーリング部	4	6
11	太極拳研究会	7	3
12	軟式野球部	8	14
13	バスケットボール部	14	15
14	バドミントン部	11	20
15	バレーボール部	12	24
16	パンチスタ	14	17
17	MWFプロレスリング	5	5
18	フットサークル	19	4
19	ラグビー部	8	5
20	リーゼンスキークラブ	7	6
21	ワンダーフォーゲル部	7	15
	<新設サークル>		
22	CHIA部 (チア部)	1	30
	合計	210	272

<廃止サークル>

ソフトボール部

No	文化系	部員数	
		男	女
	公認サークル (24団体)		
1	映画研究会	12	11
2	映像部	6	4
3	Audio Rogue	9	14
4	ガラス研究会	0	22
5	軽音楽同好会	26	30
6	劇団むさび	7	20
7	サウンド研究会	7	3
8	写真部	12	20
9	造形教育研究会アリエちびくろ	4	13
10	彫塑部	10	0
11	Tシャツ集団フラッパーズ	8	16
12	東京五美術大学管弦楽団	8	29
13	人形劇団ダニ族	0	10
14	版画部	5	7
15	漫画研究会	24	28
16	M. E. S. A (ムサビ・イングリッシュ・スピーキング・アソシエーション)	5	10
17	MODERN JAZZ SOCIETY	18	32
18	窯工研究会	13	33
19	ラテン音楽研究会	1	13
20	ロック研究会	13	12
	<新設サークル>		
21	えほんサークル	0	17
22	出版サークル	6	4
23	デッサン部	4	10
24	落語研究会	7	6
	合計	205	364

学生生活への配慮

<資料5-3> 2007年度 武蔵野美術大学サークル一覧

No	スポーツ系	部員数	
		男	女
	公認サークル (20団体)		
1	キックボクシング部	12	0
2	弓道部	11	25
3	競技ダンス部	8	8
4	剣道部	5	10
5	硬式テニス部	19	20
6	サイクリング部	10	8
7	サッカー部	15	4
8	少林寺拳法部	2	8
9	スキューバダイビング部	6	20
10	セーリング部	5	15
11	軟式野球部	10	15
12	バスケットボール部	14	13
13	バドミントン部	9	20
14	バレーボール部	12	22
15	パンチスタ	18	19
16	MWFプロレスリング	3	7
17	フットサークル	13	3
18	ラグビー部	10	8
19	リーゼンスキークラブ	10	15
20	ワンダーフォーゲル部	8	14
	合計	188	254

No	文化系	部員数	
		男	女
	公認サークル (22団体)		
1	映画研究会	7	12
2	映像部	3	10
3	Audio Rogue	3	9
4	ガラス研究会	0	13
5	軽音楽同好会	14	18
6	劇団むさび	9	17
7	サウンド研究会	8	2
8	写真部	16	20
9	造形教育研究会アトリエちびくろ	7	21
10	彫塑部	4	7
11	Tシャツ集団フラッパーズ	7	12
12	東京五美術大学管弦楽団	7	22
13	人形劇団ダニ族	0	10
14	版画部	5	11
15	漫画研究会	24	44
16	M. E. S. A (ムサビ・イングリッシュ・スピーキング・アソシエーション)	7	10
17	MODERN JAZZ SOCIETY	16	20
18	窯工研究会	12	24
19	ラテン音楽研究会	2	13
20	ロック研究会	13	12
21	デッサン部	6	9
22	落語研究会	7	6
	合計	177	322

<廃止サークル>

CHIA (チア) 部

太極拳研究会

えほんサークル

出版サークル

<資料6-1> 2004年度課外講座一覧

テーマ	講師	開催日	企画者
1. GLASS AND ART, MEDIUM AND MESSAGE ～ガラスと芸術、媒体とメッセージ～	リチャード・マイトナー (ガラス作家・元オランダ・リートフェルト美術大学教授)	2004. 4. 22	齋藤昭嘉教授 (工芸工業デザイン学科)
2. 「ケルン国際デザイン大学 (K I S D) とドイツにおけるデザイン教育の現状」 ーケルンモデルとインターフェース・デザインの事例からー	フィリップ・ハイデカンブ (ケルン国際デザイン大学(KISD)学長)	2004. 5. 17	長澤忠徳教授  (デザイン情報学科)
3. 自作を語る	遠藤利克(アーティスト)	2004. 5. 20	戸谷成雄客員教授 (油絵学科)
4. ジェン・グエン・ハツシバ 海底からのメッセージ	ジェン・グエン・ハツシバ(アーティスト)	2004. 5. 31	岡部あおみ教授 (芸術文化学科)
5. 日本美術研究の国際性	渡辺雅子 (ニューヨーク、メトロポリタン美術館キュレーター)	2004. 6. 3	玉虫敏子教授 (美学美術史研究室)
6. 飯村隆彦 パフォーマンスと映像	飯村隆彦 (映像作家、東京工芸大学教授)	2004. 6. 17	板屋緑教授 (映像学科)
7. ACOUSMONIUM (アクスモニウム) の音楽	MAKI (作曲家、ミュージシャン、写真家)	2004. 6. 28	クリストフ・シャルル助教授 (映像学科)
8. 「自作を語る」	桜井寛(画家、前油絵学科主任教授)	2004. 7. 1	美術資料図書館
9. カナダ及び欧米のデザイン事情、海外での生活とデザイン活動	中村萬里(プロダクト及びインテリアデザイナー、オンタリオ・カレッジ・オブ・アート・アンド・デザイン講師)	2004. 7. 1	寺原芳彦教授 (工芸工業デザイン学科)
10. 映像作家・出光真子、自作を語る	出光真子(映像作家)	2004. 7. 5	岡部あおみ教授 (芸術文化学科)
11. 「考える眼・感じる眼ーフェルメールの作品世界を語る」	小林頼子 (目白大学教授)	2004. 7. 5	久野和洋教授 (油絵学科)
12. サイトウマコトのグラフィックワーク	サイトウマコト (グラフィックデザイナー)	2004. 7. 9	新島 実教授 (視覚伝達デザイン学科)
13. 絵画ーミレンコ・ブルヴァキーの歩み シンガポール現代美術の現況	ミレンコ・ブルヴァキ (アーティスト)	2004. 9. 13	赤塚祐二教授 (油絵学科)
14. writing and typography	ゲルト・バウマン (グラフィックデザイナー)	2004. 9. 16	宮島慎吾教授 原研哉教授 (基礎デザイン学科)
15. Different Motivations	ヨルク・ガイスマール (アーティスト)	2004. 9. 16	小池一子教授 (空間演出デザイン学科)
16. 「静寂、ノイズ、聴取・・・映画の音」	大友良英 (ミュージシャン)	2004. 10. 14	クリストフ・シャルル助教授 (映像学科)
17. 「自作と影響を受けた作品について」 「ベルリンとベルリン芸術大学について」	ディヴィッド・イヴィスン (彫刻家・ベルリン芸術大学教授)	2004. 10. 14	戸田裕介助教授 (共通彫塑研究室)
18. デザイン雑感	松永真 (デザイナー)	2004. 10. 14	大学院博士後期課程
19. 「自作を語る」	櫃田伸也 (画家・東京芸術大学教授)	2004. 10. 18	久野和洋教授 (油絵学科)
20. 可能性をつくる	安藤忠雄 (建築家・東京大学名誉教授)	2004. 11. 11	大学院博士後期課程
21. 映画の中の美術	種田陽平 (映画美術監督)	2004. 11. 12	立花義遠教授 (一般教育)

# 学生生活への配慮

## <資料6-1> 2004年度課外講座一覧

	テーマ	講師	開催日	企画者
22.	インタフェースとしてのデザイン 〜クリエイティブ・インダストリーを超えて〜	フィリップ・ハイデカンブ (ケルン国際デザイン大学(KISD)学長)	2004. 11. 15	今泉 洋教授 長澤忠徳教授 (デザイン情報学科)
23.	“Masterpieces of Japanese Art in New York Collections”	ミッシェル・バンプリング (ニューヨーク近代美術館jane and morgan whitney特別研究員)	2004. 11. 15	日本画研究室
24.	上野千鶴子とやなぎみわ “社会をアートする /アートを社会学する”	上野千鶴子 (理論家、東京大学大学院教授) やなぎみわ (美術作家)	2004. 11. 29	岡部あおみ教授 (芸術文化学科)
25.	アメリカの現代詩	ケイト・ライト (詩人、ヴァイオリニスト)	2004. 12. 2	藤枝晃雄教授(美学美術史) 高市美千佳教授 (外国語)
26.	「制作をしながら考えてきたこと考えなかったことなどできるだけ」	田中功起 (アーティスト)	2004. 12. 2	袴田京太郎助教授 (油絵学科)
27.	不幸論	長倉洋海 (フォトジャーナリスト)	2004. 12. 6	相沢 男教授 (一般教育研究室)
28.	プロダクト視点からのデザイン	深澤直人 (プロダクトデザイナー)	2004. 12. 8	及部克人教授 後藤吉郎教授 (視覚伝達デザイン学科)
29.	イメージという言い訳・リアルという嘘	0 JUN (画家)	2004. 12. 9	丸山直文助教授 (油絵学科研究室)
30.	フィルム・ミュージックと音楽的な映像	フィリップ・プロフィー (作家、ミュージシャン、フィルムメーカー)	2004. 12. 13	クリストフ・シャルル助教授 (映像学科)
31.	韓国の金属ーさはりと日・韓・中の箸	鄭在弘 (外国人奨励研究員)	2005. 1. 13	小泉力雄教授 (工芸工業デザイン学科)
32.	繊維による造形／韓国における基礎デザイン教育	鄭丞援 (外国人奨励研究員)	2005. 1. 13	宮島慎吾教授 小林昭世教授 (基礎デザイン学科)

<資料6-2> 2005年度課外講座一覧

テーマ	講師	開催日	企画者
1. “PAISAJES INTERNOS” -内面風景-	RCR ARQUITECTES ラファエル・アラング (建築家)	2005. 4. 25	高橋晶子教授 (建築学科)
2. 久里洋二のアートアニメーション	久里洋二 (アニメーション作家、画家)	2005. 5. 12	板屋緑教授(映像学科) ・ イメージライブラリー共催
3. 近藤正勝 (アーティスト) ロンドンで17年 ～英国における絵画について～	近藤正勝(アーティスト)	2005. 5. 23	岡部あおみ教授 (芸術文化学科)
4. 荒川修作「身体と建築」を語る	荒川修作 (コーディネロジスト)	2005. 5. 26	立花義遠教授 (一般教育)
5. フィールドレコーディングとサラウンド・サウンド ・システムによる音響作品の制作	フィリップ・サマーティス (作曲家)	2005. 6. 16	クリストフ・シャルル助教授 (映像学科)
6. 「ラブ・アンド・ピース」	篠田太郎 (アーティスト)	2005. 6. 20	丸山直文助教授 (油絵学科研究室)
7. 書と現代アート	潘微 (芸術家)	2005. 6. 23	小井土満教授 (共通デザイン)
8. 内在的美の表現について	宋繁樹 (韓国弘益大学校美術大学教授、 ファイバーアーティスト)	2005. 6. 23	田中秀徳教授 (工芸工業デザイン学科)
9. 「とさのかげ」とデザイン ～風景の価値、風景から生まれるデザイン～	梅原真 (グラフィックデザイナー)	2005. 6. 27	原研哉教授 (基礎デザイン学科)
10. 「ファッション展の現場から ～変わる女性像、変わる男性像」	深井晃子 (京都服飾文化研究財団チーフ キュレーター・静岡文化芸術大学教授)	2005. 7. 4	岡部あおみ教授 (芸術文化学科)
11. 時代の曲がり角に妖怪が立つ	鷹赤児 (舞踏家) ・村松卓矢 (舞踏家)	2005. 7. 8	立花義遠教授 (一般教育)
12. 中国での経験・nana project等のデザイン教育 について	安尚秀 (グラフィックデザイナー)	2005. 7. 11	及部克人教授 (視覚伝達デザイン学科)
13. 「Little Birds」上映会と綿井監督トーク	綿井健陽 (ジャーナリスト・映画監督)	2005. 9. 12	関野吉晴教授 (一般教育) 三浦均助教授 (映像学科)
14. 現代中国の工芸	高振宇 (中国芸術院研究員、陶芸家)	2005. 9. 12	小松誠教授 (工芸工業デザイン学科)
15. “A journey across the architecture of latine types, example Univers and Bodoni” “Bultthaup, a visual menue :a corporate design of a kitchen company ”	バーバラ&ゲルト・パウマン (グラフィックデザイナー)	2005. 9. 15	宮島慎吾教授 坂東孝明教授 (基礎デザイン学科)
16. 上海戯劇学院 (演劇大学) の紹介と中国留学案内	北澤 憲昭 (跡見学園女子大学教授・美術評論家)	2005. 9. 22	新見隆教授 (芸術文化学科)
17. 現代美術と工芸をめぐって	金永林 (上海戯劇学院国際部長)	2005. 9. 22	小石新八教授・椎名純子教授 (空間演出デザイン学科) ・ 篠原規行助教授 (映像学科)
18. セクシュアリティと制度の現在	綾部六郎 (北海道大学大学院法学研究科 博士後期課程在学中) 、 志田哲之 (早稲田大学大学院人間科学研究科 博士後期課程修了・人間科学博士)	2005. 9. 22	志田陽子教授 (一般教育)
19. 「デザインと記号論」	スーザン・ヴィーマ (ヘルシンキ美術デザイン大学教授)	2005. 9. 27	小林昭世教授 (基礎デザイン学科)
20. 「All about ME～ガゼル、 ハイブリットなイラン女性の世界めぐり」	ガゼル (ビジュアル・アーティスト)	2005. 10. 3	岡部あおみ教授 (芸術文化学科)
21. 大自然を鷹と生きる	松原英俊 (鷹匠)	2005. 10. 4	相沢韶男教授 (一般教育)

# 学生生活への配慮

## <資料6-2> 2005年度課外講座一覧

	テーマ	講師	開催日	企画者
22.	食肉文化を支える人々とけがれ	栃木裕 (品川屠場労組書記長)	2005. 10. 11	関野吉晴教授 (一般教育)
23.	「戦争と環境・地域・市民」	桃井和馬 (フォトジャーナリスト)	2005. 10. 18	関野吉晴教授 (一般教育)
24.	ムサビに不時着～自作とキュレーションを語る～	鴻池朋子 (アーティスト)	2005. 10. 20	長沢秀之教授 (油絵学科)
25.	Central Saint Martins College of Art and Design セントラル・セント・マーティンズ・カレッジ・ オブ・アート・アンド・デザインについて	サイモン・ボルトン (ロンドン芸術大学 Central Saint Martins College of Art and Design プロダクトデザインコース・ディレクター)	2005. 11. 7	長澤忠徳教授 (デザイン情報学科)
26.	電子音楽：ミュージック・コンクレートからdubへ	ボリス・ヘゲンバルト (Boris D. HEGENBART/作曲家)	2005. 11. 9	クリストフ・シャルル助教授 (映像学科)
27.	「韓国からのデザイン発信」	崔炅蘭 (韓国・国民大学校造形大学 室内デザイン學科學科長)	2005. 11. 10	寺原芳彦教授 (工芸工業デザイン学科)
28.	環境とアート「ダニ・カラヴァンの仕事」	ダニ・カラヴァン (Dani Karavan/彫刻家)	2005. 11. 10	土屋公雄客員教授・ 宮下勇教授 (建築学科)
29.	構造社とその時代 (齋藤素巖・日名子実三を中心に)	田中修二 (大分大学助教授)	2005. 11. 14	黒川弘毅教授 (彫刻学科)
30.	「デザイナーのイメージ：クリシュ対リアリティ」 「ビジュアルポエトリ：パロックからJ. マエダまで」	ウタ・ブランデス (ケルン工科大学教授) ミヒャエル・エールホフ (ケルン工科大学教授)	2005. 11. 14	小林昭世教授 (基礎デザイン学科)
31.	“Design as Contemplative Practice” 熟視の実践 としてのデザイン	トーマス・オッカーズ (米国・Rhode Island School of Design 大学院 企画推進主任、教授)	2005. 11. 17	下村千早教授 後藤吉郎教授 (視覚伝達デザイン学科)
32.	美術の諸ジャンルの概念形成について	北澤憲昭 (美術評論家・跡見学園女子大学教授)	2005. 11. 21	伊藤誠教授 (彫刻学科)
33.	ドイツと韓国のイラストレーション教育	マルクス・ヘレンベルガー (ドイツ・ミュンスター専門技術大学教授)、 リ・ウォンボク (韓国・徳成女子大学教授)	2005. 11. 21	今井良朗教授 (芸術文化学科)
34.	クリストファー・クック氏の作品について	クリストファー・クック (英国・プリマス大学芸術学部絵画学科助教授)	2005. 11. 24	内田あぐり教授 (日本画学科)
35.	「ドイツ現代美術」は過大評価されているか？	山本和弘 (栃木県立美術館学芸員)	2005. 11. 24	袴田京太郎助教授 (油絵学科)
36.	「赤ずきん」に描かれたイラストレーション	マリア・リンスマン (ドイツ・トロースドルフ絵本美術館館長)、 ベルンハルド・シュミッツ (同美術館学芸員)	2005. 11. 28	今井良朗教授 (芸術文化学科)
37.	葛飾北斎一人と芸術	永田生慈 (太田記念美術館副館長兼学芸部長・ 葛飾北斎美術館館長)	2005. 12. 1	久野和洋教授 (油絵学科)
38.	ファシズム期のイタリア彫刻	上村清雄 (千葉大学助教授)	2005. 12. 1	黒川弘毅教授 (彫刻学科)
39.	伊藤高志の実験映画	伊藤高志 (映像作家・京都造形芸術大学教授)、 黒坂圭太 (本学映像学科教授)	2005. 12. 1 2005. 12. 2	黒坂圭太教授 (映像学科) ・ イメージライブラリー共催
40.	カールスティン・ニコライ ライブ&レクチャー	カールスティン・ニコライ (ミュージシャン・メディアアーティスト)	2005. 12. 5	クリストフ・シャルル助教授 (映像学科)
41.	ルカ・ジノ・ブライ・ザンチン氏 自作について	ルカ・ジノ・ブライ・ザンチン (アーティスト・本学外国人奨励研究員)	2005. 12. 5	内田あぐり教授 (日本画学科)
42.	「心の病」の対処法	大原広軌 (編集者・作家)	2005. 12. 12	関野吉晴教授 (一般教育)
43.	中国の現代音楽の現況	ディクソン・ディー (ミュージシャン・ 音楽プロデューサー)	2005. 12. 15	クリストフ・シャルル助教授 (映像学科)

<資料6-3> 2006年度課外講座一覧

テーマ	講師	開催日	企画者
1. 預金と戦争・環境との関係	田中 優 (未来バンク事業組合理事長・ap bank顧問)	2006. 4. 25	関野吉晴教授 (教養文化) +prime notes
2. 映像作家ズビク・リプチンスキーの世界 — 映像メディアの再考 —	瀧 健太郎 (メディアアーティスト)	2006. 4. 2	板屋緑教授 (映像学科) ・ イメージライブラリー
3. 「古寺巡礼—仏像探訪」第1回 飛鳥・白鳳美術 (法隆寺・中宮寺・薬師寺)	金子 啓明 (美術史家・東京国立博物館事業部長)	2006. 5. 13	甲田洋二教授 (共通絵画)
4. 美術は歴史的課題にどう答えるか	宇佐美 圭司 (画家)	2006. 5. 15	長沢秀之教授 (油絵学科)
5. アンデス文化のアートの特異性	阪根 博 (ペルー・天野博物館事務局長)	2006. 5. 29	内田あぐり教授 (日本画学科) 相沢韶男教授・関野吉晴教授 (教養文化)
6. 古代アンデス文明・その歴史と芸術文化	阪根 博 (ペルー・天野博物館事務局長)	2006. 5. 30	相沢韶男教授・関野吉晴教授 (教養文化)
7. ペルー天野博物館の挑戦	阪根 博 (ペルー・天野博物館事務局長)	2006. 5. 31	神野善治教授 (学芸員課程) ・ 伊東毅教授 (教職課程)
8. —アート・コンサルタントの仕事— ウィーン世紀末芸術への招待	ポール・アゼンバウム (アート・コンサルタント)	2006. 6. 1	新見隆教授 (芸術文化学科)
9. 絵を描く未来者たちへ ～漫画・日本・風景・街・建築から絵画を考える	山本 純司 (集英社第二編集部部長代理・ 単行本企画室長)	2006. 6. 5	遠藤彰子教授 (油絵学科)
10. 天草の海から ～映画「もんしえん」ができるまで～ 一人の少女の想いが映画になるまでのプロセス。	山本 草介 (監督・脚本・編集) ・ 玉井 夕海 (企画・脚本・主演・音楽) ・ 海津 研 (脚本・イメージ設計) ・ 山上 徹二郎 (映画プロデューサー)	2006. 6. 8	立花義遼教授 (教養文化)
11. 「古寺巡礼—仏像探訪」 第2回 天平美術 (興福寺・東大寺)	金子 啓明 (美術史家・東京国立博物館事業部長)	2006. 6. 10	甲田洋二教授 (共通絵画)
12. 『しりあがり寿の現代美術 in Deep』	しりあがり寿 (漫画家)	2006. 6. 12	長沢秀之教授 (油絵学科)
13. 「ヨロヨロン 映像インスタレーションの世界」	束 芋 (アーティスト)	2006. 6. 15	布施茂教授 (建築学科)
14. マルクス・ヘレンベルガー教授、自作を語る/ 韓国・ドイツ・日本の学生絵本作品について	マルクス・ヘレンベルガー (ドイツ・ミュンスター専門技術大学 デザイン学部教授) / リ・ウォンボク (韓国・徳成女子大学産業美術学科教授)	2006. 6. 19	今井良朗教授 (芸術文化学科)
15. ニューヨークと日本におけるアーティストの仕事	照屋勇賢 (アーティスト)	2006. 6. 19	新見隆教授 (芸術文化学科)
16. 「芸術原論 興味の変遷」	赤瀬川 原平 (本学客員教授)	2006. 6. 26	内田あぐり教授 (日本画学科)
17. 芸術人類学 (芸術と冒険)	石川 直樹 (作家・写真家・ 多摩美術大学芸術人類学研究所研究員)	2006. 6. 27	関野吉晴教授 (教養文化)
18. 「まばたきの標本」 —未知なるものをみつめるために	鈴木 康広 (アーティスト)	2006. 7. 3	原研哉教授 (基礎デザイン学科)
19. 「壁を越えて」人間と環境の現在	高野 孝子 (早稲田大学客員助教授・ NPOエコプラス代表)	2006. 7. 4	関野吉晴教授 (教養文化)
20. 「古寺巡礼—仏像探訪」 第3回 王朝美術 (平等院) ・ 鎌倉美術 (運慶・快慶の彫刻を求めて)	金子 啓明 (美術史家・東京国立博物館事業部長)	2006. 7. 8	甲田洋二教授 (共通絵画)
21. 「垂直の記憶」何故単独で難壁に臨むのか	山野井 泰史 (クライマー)	2006. 7. 10	関野吉晴教授 (教養文化)

# 学生生活への配慮

## <資料6-3> 2006年度課外講座一覧

	テーマ	講師	開催日	企画者
22.	建てない建築家 アンビルド・アーキテクトの視座	真壁 智治 (プロジェクトプランナー) ・ 入江 経一 (建築家)	2006. 9. 11	布施茂教授 (建築学科)
23.	「A to Z in ムサ美」	奈良 美智 (画家) ・ 豊嶋 秀樹 (美術家)	2006. 9. 14	伊藤誠教授 (彫刻学科)
24.	『画家と写真家—その相関をめぐって』	平木 収 (九州産業大学芸術学部写真学科教授)	2006. 9. 25	遠藤彰子教授 (油絵学科)
25.	motokojapon vol.4 performance+イギリス留学体験から	大日向 基子 (パフォーマンス・アーティスト)	2006. 9. 28	篠原規行助教授 (映像学科) ・ 大浦一志教授 (共通絵画)
26.	Kontrapunkt for 20	ポー・リンネマン (コントラプンクト代表、 デザイナー、クリエイティブ・ディレクター)	2006. 10. 5	原研哉教授 (基礎デザイン学科)
27.	タイポグラフィの潮流	James Mosley (レディング大学客員教授・ ロンドン大学主任研究員)	2006. 10. 11	後藤吉郎教授 (視覚伝達デザイン学科)
28.	「死者の書」上映会とプロデューサー福間順子氏の講演	福間順子 (映画プロデューサー)	2006. 10. 16	関野吉晴教授 (教養文化)
29.	仮想と現実・平面と立体の距離	押井 守 (映画監督)	2006. 10. 19	戸田裕介教授 (共通彫塑)
30.	「クロアチアの現代美術」	Leila Topić (ザグレブ現代美術館学芸員)	2006. 10. 23	クリストフ・シャルル助教授 (映像学科)
31.	深澤直人氏の見えるデザインの展望	深澤直人 (デザイナー・ 本学基礎デザイン学科教授)	2006. 11. 7	及部克人教授・後藤吉郎教授 (視覚伝達デザイン学科)
32.	Royal College of Art とその教育	Anthony Dunne (Royal College of Art教授) ・ Fiona Raby (Royal College of Art講師)	2006. 11. 9	長澤忠徳教授 (情報デザイン学科)
33.	Central Saint Martins College of Art and Design について	Heather Sproat (Central Saint Martins College of Art and Design講師)	2006. 11. 13	パトリック・ライアン教授 (空間演出デザイン学科)
34.	FASHION SHOCK	Heather Sproat (Central Saint Martins College of Art and Design講師)	2006. 11. 16	パトリック・ライアン教授 (空間演出デザイン学科)
35.	無声映画の再発見	澤登 翠 (活動弁士) ・ 松田 豊 (マツダ映画社代表取締役)	2006. 11. 17	立花義遠教授 (教養文化) ・ イメージライブラリー
36.	概念の視覚化	HOLGER MATTHIES (グラフィックデザイナー)	2006. 11. 22	新島実教授 (視覚伝達デザイン学科)
37.	書と現代アート	潘微 (芸術家)	2006. 11. 27	小井土満教授 (共通デザイン)
38.	ソネット<14行詩>の世界—自作を中心に—	ケイト・ライト (詩人・ヴァイオリニスト)	2006. 11. 27	藤枝晃雄教授 (美学美術史)
39.	芸術人類学とはなにか	中沢 新一 (多摩美術大学芸術人類学研究所 所長・同大学美術学部芸術学科教授)	2006. 11. 29	板東孝明教授 (基礎デザイン学科)
40.	アニメーションと絵本 —『きりのなかのはりねずみ』を中心に—	ユーリー・ボリソヴィチ・ノルユテイン (映像作家)	2006. 11. 30	西本企良教授 (視覚伝達デザイン学科) ・ 黒坂圭太教授 (映像学科) ・ 今井良郎教授・米徳信一助教授 (芸術文化学科)
41.	自己啓発セミナー、カルト宗教被害などを 中心とする学生を取り巻く悪徳商法の罠 (わな)	紀藤 正樹 (弁護士)	2006. 12. 4	永澤勝久課長 (学生生活課)
42.	音楽の建築—フィボナッチ、ペンローズ、 黄金比をめぐる数理的造形—	日詰 明男 (建築家)	2006. 12. 5	坂東孝明教授 (基礎デザイン学科)
43.	「公的年金制度の役割としくみ」	都村 敦子 (中京大学教授)	2006. 12. 14	永澤勝久課長 (学生生活課)



<資料7> 外国人留学生受入状況（私費）

	2002	2003	2004	2005	2006
造形学部	49	51	61	72	75
大学院	21	28	33	30	29
合計	70	79	94	102	104

国・地域別

韓国	52	63	75	79	83
中国	6	6	5	9	11
香港	2	1	3	3	2
台湾	6	5	4	5	4
シンガポール	2	2	2	2	1
その他	2	2	5	4	3

\*国費・交換留学生除く

	2002	2003	2004	2005	2006
造形学部	0	0	0	0	0
大学院	3	2	3	5	3
委託	2	2	2	3	3
合計	5	4	5	8	6